

満開の桜が葉桜に変わり、4月も半ばとなりました。

今年度も学校図書館アドバイザーが「作業計画会議」等、各学校を巡回させていただきます。また、各学校の学校図書館活用推進や読書活動推進の支援もいたします。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第三次 新宿区子ども読書活動推進計画 の目標達成を

今年度は、「第三次新宿区子ども読書活動推進計画（平成 24～27 年度）」の最終年です。本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、文部科学省、東京都が策定した基本計画を受けて、新宿区が策定した計画です。5つの数値目標が設定され、そのうち4つが学校教育と関わり、3つが毎年児童・生徒に行っている「学校図書館と読書についてのアンケート」の項目になっています。学校の教育活動の目標の中に設定し、各学校での取り組みをよろしくお願い申し上げます。

「第三次新宿区子ども読書活動推進計画」のうち、学校で取り組むべき事項	目標達成のための手だて（例）
区立図書館における団体貸出冊数の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度並みの学習支援本の利用</li> <li>・まだ、利用していない学校の利用</li> </ul>
区立小・中学校の児童・生徒の不読者率の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書等で、確実に読ませる指導</li> <li>・読書力をつける朝読書等読書の時間の指導</li> </ul>
1 か月間に学校図書館で本を読んだり借りたりした児童・生徒の割合の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館を利用する時間の設定</li> <li>・学校図書館に親しむ活動</li> </ul>
読書が好きな児童・生徒の割合の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に親しみ、読書が話題になる学校</li> <li>・読書の習慣化</li> </ul>

## 第 57 回 こどもの読書週間 4 月 23 日～5 月 12 日

「こどもの読書週間」は、「こどもの日」に合わせて平仮名なのだそうです。

今年度の標語は、「本は キラキラ 万華鏡」です。

4 月 23 日は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」により「子ども読書の日」と定められています。また、4 月 23 日は、「世界・本と著作権の日」（ユネスコ）であり、スペインのカタルーニャ地方では、本や花を贈り合う「サン・ジョルディの日」でもあります。\*



## お 知 ら せ

- ① 学校図書館に関する相談、支援の依頼は、気軽にとの方法でも結構です。
  - 1 学校図書館支援員、委託事業者の活用推進員に各学校で
  - 2 教育支援課教育活動支援係担当者へ
  - 3 学校図書館アドバイザーへ
- ② 今年度も、読書感想文の各校担当者会を 8 月 27 日（木）に行います。いろいろな本に出会わせ、計画的に読書指導を行う中で、読書感想文は、宿題にせずに学校で指導してください。

\* 公益社団法人読書推進運動協議会  
 日本書店商業組合連合会

## 進む学校図書館活用・読書活動

各学校に学校図書館支援員が配置されて、3年目を迎えました。4月に7校の作業計画会議に参加させていただきました。どの学校も学校図書館に入ると活用されて動いている雰囲気を感じられました。

児童・生徒、教員が学校図書館を活用し、それに対応して学校図書館支援員が常に展示や掲示、コーナーなどを作り、授業等で使われる予定の本が出番を待っている、学校図書館ボランティアが季節の装飾をしている、学校図書館は本が整然と並んでいけばよいのではなく、排架や案内表示などの基本的な整備がなされた後でも常に動いているのだと実感しました。

授業での活用や読書活動も増えています。学校図書館活用や読書の指導計画を作成した学校も増えています。司書教諭や学校図書館担当教員の力を感じます。

今年度も、さらに、各教科等での学校図書館活用と読書活動を推進していきましょう。

## 学校図書館の機能を生かす蔵書構成を

もうすぐ各学校に今年度の図書購入業者について通知されます。新宿区では、平成 25 年度に学校図書館図書標準 100%を達成しました。さらに、毎年更新が大切です。

図書購入費は、公費です。個人に任せないことが大切です。学校の教育活動において、「教育課程の展開に寄与する」「児童生徒の健全な教養を育成する」ための図書を学校として選択しましょう。たとえば、校務分掌の学校図書館部と学校図書館支援員・学校図書館スタッフ、必要に応じて、教務主任や教科主任等も入り、資料選択委員会を構成して、購入図書の案を作成し、教員に回覧して校長が決裁する、などです。

予算は、年度当初に使い果たさず、必要な本はいつでも購入できるように、またこれから秋にかけての新刊も購入できるようにしてください。図書購入費は、図書を購入するためのものです。新聞・雑誌、壁新聞、図書館用品等は、校内予算で購入してください。特定の学年のために人数分購入する図鑑や辞典等は、各教科等の予算で購入し、利用する学年においたほうがよいでしょう。

図書の購入については、平成 25 年 8 月第 4 号、平成 26 年 5 月第 12 号も参照してください。

参考 ○児童・生徒が間違った認識をしてしまう古い資料は、廃棄する。

○文学作品でも、古く色あせたものは買い換える。

○校内研究や授業で利用する図書を優先させる。

○読み物は、学年の発達段階を考慮した上で、読書に親しませるため、読書の幅を広げるため、成長の糧となるように、などの目的をもって選択する。

○近年刊行された本や評判の良い本、その学校図書館の蔵書構成から必要とされる本など、学校図書館支援員や学校図書館スタッフに推薦してもらう。

○児童・生徒からのリクエストも参考にする。

## お知らせ

平成 27 年 1 月 23 日（金）の学校図書館教育研修会で発表された平成 26 年度学校図書館教育推進委員の実践事例の概要を「しんじゅく学校図書館」のサイトに掲載しました。「学校図書館アドバイザーだより」のバックナンバーも掲載していますので、ご覧ください。

運動会が終わり、読書月間を迎えている学校も多い 6 月です。

新宿区内の小・中学校では、4～5月に34校で学校図書館のオリエンテーションが実施されました。今年度も、日々の教育活動で学校図書館を積極的に活用していきましょう。

## 読書の力の育成を

授業での図書資料の活用が増えています。同時に、1冊の本を読み通すことも、やはり大切です。

読書の力の育成

調べるために必要な資料や情報源を選択し、必要な情報を見つけ出し、比較・評価し、自らの考えを構築する力

1冊の本を1ページ目から最後まで順に丹念に読んでいく力

学校図書館資料で調べる指導と、学年の発達段階に応じた本を1冊しっかりと読み通す力をつける指導を常に意図しましょう。長い文章を読み進めるには、訓練が必要です。一斉読書や図書館利用の時間に、文章を読む力をつけるという目当てを児童生徒にもたせて読ませることが、読書の力を育成します。

(平成 26 年 11 月号第 17 号もご参照ください。)

## 図書の購入と払い出し（廃棄）について

昨年度もお知らせしましたが、図書購入は、これから出版される図書やこれから必要になった図書を年度途中にも購入できるように、学校図書館の活用推進を第一に考えて発注の計画を立ててください。新着図書コーナーの図書が変わると児童生徒の読書意欲もわきます。全校でご理解ご協力をお願いします。

学校図書館運営で、購入と同じぐらい大事なのが、払い出し（廃棄）です。各学校で、資料収集方針とともに、払い出し基準も作成しましょう。払い出しも購入図書選択と同様に、「図書廃棄委員会」など組織的に対処します。学校図書館支援員に廃棄図書リストの作成を依頼しても、各教科担当教員等の協力で検討することが望ましいです。

<参考一「学校図書館図書廃棄基準」 1993年1月15日全国学校図書館協議会制定>

「一般基準」次の各項のいずれかに該当する図書は廃棄の対象とする。

- 1 形態的にはまだ使用に耐えうるが、記述されている内容・資料・表記等が古くなり利用価値の失われた図書。
- 2 新しい学説や理論が採用されていない図書で、史的資料としても利用価値が失われた図書。
- 3 刊行後時間の経過とともにカラー図版資料の変色が著しいため、誤った情報を提供することが明白になった図書。
- 4 利用頻度の著しく低い副本で保存分を除いた図書。

## 学校図書館教育研修会・連絡会

過日通知されましたように、6月15日（月）は、15時から学校図書館教育研修会です。連絡会も兼ねていますので、各校1名以上の参加をよろしくお願いします。学校図書館スタッフも希望を確認の上、申し込んでください。

1 学期末となりました。7 月の学校図書館は、夏休み前の貸出、休み中の開館、自由研究など指導・支援することが盛りだくさんです。

読書感想文の指導において、夏休みは本と出会う好機ですが、盗作・剽窃・本嫌いなどを防ぐためにも夏休みの宿題にはしないで、2 学期の国語科の中で計画的に指導してください。



### 子どもたちにとっての学校図書館

先日、都内小学校の特別支援学級における学校図書館活用の話を聞く機会がありました。

特別支援学級でも探究的な学習の基本は変わらず、学校司書や司書教諭の支援で、個に応じた学習がされていました。本の貸出は、1 冊は季節や行事などにちなんだその時のテーマの本、1 冊はお話の本、もう 1 冊は好きな本を借りるように指導しているそうです。

学校図書館の活用を意図的に指導するようになり、児童にとって学校図書館が、「好きな本を読む場所」から「読書と学習をする場所」に変化したということです。

新宿区の児童・生徒にとって、学校図書館は、どんな存在になっているのでしょうか。「好きな本を読む場所」「好きな本を借りる場所」だけでは、なっていないはずです。

### 夏休みの自由研究

夏休みに自由研究を課題にする学校も多いと思います。探究的な学習で指導すべき事項はたくさんありますが、以下のことを特に重視したいです。

- 複数の方法や情報源・情報で調べる。
- インターネットは、信頼できるサイトを利用する。調べ始めの入り口としては役に立つが、参考文献としてはふさわしくないサイトもある。
- レポートなどにまとめるには、研究の動機や課題設定の理由を必ず書く。
- 引用は、「」に入れたりポイントを落としたり、わかるように表し、出典を書く。
- 資料リストをつける。

今月添付した「自由研究をしよう」は、「しんじゅく学校図書館→授業での活用→ワークシート」にも掲載しています。

### 学校図書館教育研修会・連絡会

6 月 15 日に「学校図書館研修会・連絡会」が開催されました。

講師の話は、「学校図書館活用そのものが目的ではない。しかし、学校図書館を活用することによってしか身に付かない力がある。」「課題設定力、情報収集・選択、情報のまとめと伝達などは、指導しないと身に付かない力である。」「調べさせっぱなしは、よくない。話し合う活動を入れる。」「学校図書館を使った授業を固定観念でとらえない。幅広い図書館活用のイメージをもつ。」など、一言一言が、参考にするべき内容でした。

参加された先生は、資料を回覧するなど、校内の先生方に研修会の内容を伝えてください。

まだまだ、暑い日が続きますが、いよいよ 2 学期です。これから修学旅行や移動教室を行う学校は、事前学習・事後学習に、学校図書館や新宿区立図書館の団体貸し出しをぜひご活用ください。

## 教育改革と学校図書館

「エデュケーション 2030」プロジェクトを進めている経済協力開発機構（OECD）のアンドレス・シュライヒャー教育局長がその一環で来日し、6 月 29 日に文部科学省内で中央教育審議会の会長・副会長と意見交換がありました。北山禎介中教審会長は、「現在検討が進められている小中高の学習指導要領の改訂や大学入試改革で、アクティブ・ラーニングや課題発見能力が重視されていることを説明」し、シュライヒャー氏は、「カリキュラムを変えるだけでなく、実践する教員の意識を高めることが必要だ」と述べたそうです。（2015 年 7 月 3 日読売新聞より一部要約）

「初等教育資料 2015 年 4 月号」では、「各教科における主体的に学習に取り組む態度の育成」の特集が生まれ、文部科学省初等中等教育局教育課程課の解説で、「学習内容のみならず学習方法の観点にも着目する必要がある。」「指導方法の工夫改善を図ることが求められている。」「ICT や学校図書館の活用等についても、子供の主体的に学習に取り組む態度の育成の観点からも引き続き充実を図っていくことが重要である。」と、述べています。

「アクティブ・ラーニング」「21 世紀型学力」「エデュケーション 2030」など、これからの教育のキーワードを目にしますが、これらの教育改革に学校図書館の活用は欠かせません。今学期も、授業で学校図書館を活用し、全ての児童・生徒が学校図書館で学習したり、本を借りたり読んだりするよう、ご計画ください。

## リニューアルされる大学図書館

日本の教育改革が進む中、大学図書館もリニューアルが進んでいます。リニューアルというと、きれいになる、親しみやすくなる、使いやすくなるなどをイメージしますが、リニューアルしている大学図書館に共通するキーワードは、やはり「アクティブ・ラーニング」です。

「ラーニング・コモンズ」や「アクティブラーニング・スペース」といった名称のスペースを作り、授業の課題を解決したり、グループで学習をしたり、プレゼンテーションの練習をしたり、教育系大学では教育実習の準備をしたり、学生の主体的な学びを支える施設になっています。リニューアルをしていない大学図書館も、グループ学習室など、会話やパソコン使用が可能なスペースが見受けられます。大学の授業方法も大きく変わってきている今日です。

## 読書感想文の指導を

8 月 27 日（木）3 時 30 分より落合第五小学校にて、新宿区読書感想文集「けやき」作成委員会が行われます。各学校担当者は必ずご出席ください。読書感想文は、文章を主体的に読み取り、深く考え、自分の考えを文章で表現する力を育成する教育活動の一つです。今月は、「しんじゅく学校図書館」に公開している読書感想文指導資料を添付します。参考にしてください。





読書の秋。学芸会、音楽会、展覧会、学習発表会等、秋は学校行事がいろいろあります。読書に親しむことは、日々の積み重ねが大切です。行事への取り組みの合間、少しの時間でも読書の時間を作らせてたいものです。

## 学校図書館活用・読書活動等に関する調査

今年度も「児童・生徒の学校図書館活用及び読書活動等に関する調査」が行われます。この調査は、「新宿区子ども読書活動推進計画」における目標がどのぐらい達成されているかを調査するものです。新宿区では、一斉読書の実施校が増え、未読者がいない学校が増えています。問 3 は、読書センターとして学校図書館がどのぐらい活用されているか、問 4 は学習センター・情報センターとしてどのぐらい学校図書館が活用されているかがわかります。

これまで、ブックトークや読書ビンゴをはじめ、掲示・展示・図書館便りや授業で、様々な方法により児童生徒に本の紹介をしてきたと思います。問 6 は、これらの方法で紹介した本をどのぐらいの児童・生徒が読んでいるのかがわかります。

調査アンケートは、児童・生徒が各設問の内容を理解したうえで回答できるよう、教員が説明をしたうえで行ってください。

なお、学校図書館を活用する単元や読書週間の実施時期等の関係で 12 月に入ってから調査をしたい学校もあるかもしれませんが、11 月 30 日までをお願いします。

## 「調べたことを報告しよう レポートにまとめる」(国語・中学 1 年生)

新宿区が採用している中学校 1 年生の国語の教科書に「調べたことを報告しよう レポートにまとめる」という単元があります。光村図書出版のサイトでは、11 月に 4 時間で扱う計画になっています。

「レポートの形式に沿ってまとめる方法を学習しよう」が目当てですが、「課題を探す」「下調べをする」「報告する内容を考える」「報告する内容にふさわしい方法で、情報を集める」「調べたことを記録する」「集めた情報を整理する」「レポートの構成を考える(読み手の把握・見出し・意見と感想との区別・引用・統計数字の利用法・図やグラフの活用)」「レポートにまとめる」「レポートを読み合う」など、内容は盛りだくさんです。

これらを 4 時間で指導することは難しいでしょうが、探究的な学習をする上で大切な指導事項です。この単元は、主にレポートにまとめる方法を学習することが目標ですから、課題設定の段階や調べる段階で必要な情報活用能力は、既習していることが前提になるのでしょうか。

いつどのような内容を指導するのか、小学校・中学校を通して、発達段階に応じた指導計画が必要です。それにはまず、教科書に取り上げられている探究的な学習に必要なスキルを各学年に応じてきちんと指導していくことが必要です。「しんじゅく学校図書館」に掲載しております「探究的な学習における発達段階に応じた学習の手だて」も参考にしてください。これらの学習が、らせん状に繰り返されてレディネスができていれば、この単元が生きるのではないのでしょうか。

各中学校の国語の先生におかれましては、資料準備や授業補佐等で学校図書館支援員に声をかけてください。

## 学校図書館作業計画会議にて

落合第三小学校の学校図書館作業計画会議に参加した時のことです。児童から学校図書館の蔵書について「歴史とスポーツの本が少ないので、買ってほしい。」「お話の本がもっとほしい。」という声が上がっていると学校図書館支援員から報告がありました。

子供たちの読書の内容は、環境や周りの働きかけで大きく変わっていきます。1冊の本を読み通せる力をつけさせ、読書により自分が成長していく喜びを味わう経験をさせることで、子供たちの読みたい本の内容がレベルアップしていきます。

落合第三小学校では、教員が授業等で学校図書館を計画的に活用し、「児童が育っているなあ。」と感じました。会議では、調べるための本も充実させたいと、今年度最後の図書購入の相談もしました。

## 広がる読書活動

10月から12月にかけて、多くの学校で読書週間（旬間・月間）が設けられています。

今年度の傾向として、高学年が低学年に、中学生が幼稚園児にというような異年齢での読み聞かせ、栄養士と学校図書館支援員とが連携して行う本と関連した給食のメニューの企画とその本の紹介、読書の幅を広げる読書ビンゴが増えたことが挙げられます。学校図書館支援員の配置により1校の実践が区内の他の学校に広がっています。その他にも、各学校ごとの本に親しむ取り組みが盛りだくさんです。

教員の指導による図書委員会の活動も、集会活動やおすすめの本の展示など活発に行われています。

## 授業での読書活動

牛込仲之小学校で、学校図書館支援員による6年生への宮沢賢治作品のブックトークを参観しました。学校図書館支援員が作品をよく読み込み、賢治独特のオノマトペや自然描写などキーワードに沿って作品が紹介され、大人の私も賢治の魅力を再認識させられ、読んでみたくなるブックトークでした。

導入指導の後、担任も児童と一緒にブックトークを楽しむことにより児童が集中して聞いていました。ブックトークが終わると、あらかじめ集められていた賢治の本から1人1冊読みたい本を選びます。紹介された本に児童が集まります。数人で覗き込む姿も見られました（写真）。複本で準備されているので混乱はありません。選んだ本は、すでに学級貸出しされているので、貸出手続きはしません。ワゴンに残った本は、後で教室に運びました。

ブックトークにより、賢治独特のオノマトペを楽しむ子、情景描写を味わう子、賢治の人となりを思いながら読む子など、作品を多様に楽しむことができそうです。

本の準備、ブックトークの構成、1時間の授業の流れなど、担任と学校図書館支援員がしっかり連携している様子が伝わってきました。ブックトークを国語の学習指導に位置付け、教員の指導に学校図書館支援員が支援するという典型となるいい授業を参観させていただきました。



明けましておめでとうございます。

今年は、8月に国際学校図書館協会（IASL）の大会が東京で行われ、8月22日～26日に明治大学キャンパスが会場になります。8月8日～10日には全国学校図書館研究大会が神戸で行われます。学校教育にとって学校図書館は、益々欠かせない存在になります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 探究的な学習におけるいくつかのポイント

探究的な学習でまとめのレポートを作成している学校もたくさんあると思います。レポートを作成するにあたり、いくつかのポイントを挙げてみたいと思います。

まず大事なのが「課題設定の理由」と「参考資料」を書くことです。なぜその課題にしたのか、その課題を調べることはどのような意義があるのか、学年の発達段階に応じて書けるように指導します。中学校では、先行研究や仮説も書けるようにしたいです。

調べる段階では、適切な情報源を選び情報の探索の仕方を身に付けさせることが重要です。中学校を卒業するまでに、実験や見学などの体験、インターネット上の信頼できる情報、図書や冊子などの資料など、複数の情報源から調べ、情報を比較し、評価できるようにしたいです。学校図書館支援員にレファレンスなど、資料収集の支援を依頼するとともに情報・資料を探索する学習指導をしてください。

近年、著作権と人権は、特に留意するように指導することが望まれています。調べたことと自分の考えを分けて記し、引用は、はっきりとわかるように「」でくくるなどします。引用文献や参考文献の書き方も指導し、定着させることが必要です。

もちろん、「見学や体験をまとめる」「本で調べてまとめる」「インターネットで調べてまとめる」など、個々の能力を身に付けさせるために、学年の発達段階に応じて指導する場合もあるでしょう。

情報活用能力の育成計画は、「探究型の学習における発達段階に応じた学習の手立て（案）」（しんじゅく学校図書館掲載）や「情報メディアを活用する学び方の指導体系表」（全国学校図書館協議会 <http://www.j-sla.or.jp/pdfs/material/taikeihyou.pdf>）を参考に各学校で作成し、実践しながら更新していきましょう。

## 読書感想文集「けやき」

今年度も新宿区の読書感想文集「けやき」の編集が進んでいます。区長賞は、以下の通りです。

小学校低学年 お日さまクレヨン 四谷第六小2年

（「クレヨンからのおねがい」ドリュー・デイウォルト ほるぷ出版）

中学年 え顔になれたらいいな 津久戸小3年

（「ガラスのうさぎ」高木敏子 金の星社）

高学年 白旗を高くかかげて 早稲田小6年

（「白旗の少女」比嘉富子 講談社）

中学校 人の弱さ 牛込第一中2年 （「こころ」夏目漱石 新潮社）

読書感想文は、選書が大事だと言われます。1冊の本と対峙し、それを深く読み込んで考察し、文章で表現します。日ごろの読書と作文の指導の成果が「けやき」です。児童書として評価できる作品との出会いを数多く作ってください。

口承で「1月に行く（往ぬる、去ぬ、いぬ）、2月は逃げる、3月は去る」などと言われますが、あっという間に2月です。各学校では、日々の教育活動と同時に卒業・進級の準備、年度末評価、新年度計画立案の時期を迎えていることと思います。学校図書館の活用や読書の指導につきましても、計画を策定し、教育計画に入れていただきますようよろしくお願い申し上げます。

## 全校で組織的・計画的に取り組む学校図書館活用と読書の指導

今年度も学校図書館アドバイザーとして各学校に伺わせていただき、各教科等の内容に対応した蔵書の充実、各教科等での学校図書館の活用、児童・生徒に読書に親しませる指導など、大きく進んでいることが分かりました。

全校で学校図書館活用と読書活動の意義を共有し、教育活動に位置付け、組織的・計画的に学校図書館を活用し、読書活動を推進するためには、諸計画が必要です。今回は、「**学校図書館教育全体計画**」と「**学校図書館活用年間計画**」の様式例を添付します。

新宿区では、「学校図書館教育全体計画」は、すべての学校で策定するようになっていっていますので、まだ計画のない学校は、参考にしてください。「学校図書館活用年間計画」は、先日の「学校図書館教育研修会」で配布された「津久戸小学校 月別学習支援報告」と「しんじゅく学校図書館」サイトから入手できる「学校図書館教育推進リーフレット」（平成 24 年度・25 年度）が参考になります。

## 読む力を付ける

各学校では、朝やちょっとした隙間の時間、「図書の日」などで読書に親しみ、様々な読書活動が展開されています。各教科等における読書活動も増えてきました。

読書には、著者の構成に則って1冊の本を読み通す、いわゆる読み物を読む読書と、知りたいことを調べるために必要な部分を探して必要な部分だけ読む読書とがあります（平成 27 年 6 月号第 24 号参照）。朝読書や図書の時間など教育課程内の読書は、1冊の本を読み通す力をつけるための時間として効果を上げています。新聞、雑誌、参考図書などで調べることは、後者に入ります。

特に1冊の本を読み通す力は、「訓練」が必要です。成長の糧となるような図書の紹介も大切です。年度末、次のような姿が見られているといいと思います。

小学校 1 年生 読み聞かせやお話を楽しんで聞き、絵本や簡単な幼年文学を一人で読んでいる

2 年生 絵本や幼年文学を一人で黙読している

3 年生 絵本や 100 ページぐらいの本を読み通すことができている

4 年生 200 ページぐらいの本を読み通すことができている

5・6 年生 200 ページぐらいの本を読み通し、ロングセラーやノンフィクションなど成長の糧となるような本も読んでいる

中学生 読書に親しみ、1冊の本を読み通すとともに、純文学や評論、ノンフィクションなど成長の糧となるような本も読んでいる

成長の糧となるような本とは、選書の観点が難しいですが、学校図書館支援員や学校図書館スタッフに相談したり、図書館のお知らせや書評誌などを参考にしたりして、先生方も児童書や YA（ヤングアダルト）図書に親しみ、児童・生徒と先生方のおすすめの本との出会いの場をたくさん作ることが大切です。各学校では、展示や掲示、図書館便り、ブックトーク、読書ビンゴなど、いろいろな本との出会いの場が工夫されています。

ある小学校の作業計画会議でのこと、「学校図書館を活用して調べてまとめる学習により、子どもたちの書く力が伸びた。初めての文章でもすらすら読めるようになった。」という話を聞きました。読み聞かせを集中して聞き、「言葉を聞いて想像する力がついてきた。」という話も聞きました。

各教科等での学校図書館活用が増え、学校図書館支援員による学習支援も幅が広がった 1 年だったのではないのでしょうか。

## 図書の更新

今年度も、学習に役立つとともに、児童生徒が読書に親しみ読書生活が豊かになる蔵書の充実が図られました。さらに、古い情報が載っている図書や汚損で手に取られないような図書を廃棄し、学校図書館資料を定期的に更新することも行われました。

来年度への課題として、長く読み継がれた作品を現代の子どもたちに読んでもらうため、色あせたロングセラーの買い換えを検討してみてください。大人が「壊れていないからまだ読める。」と思っても、その本を手にした時の子どもの顔が曇ったり、見た目子どもたちが手に取らなかったりしていないでしょうか。新しく出版された本もいい本がたくさんありますが、各年代の子どもたちには是非読ませたい長く読み継がれた本を手渡していくための図書の更新も検討し、子どもたちがそれらの本に興味関心をもつような読書活動を計画してください。

## 「図書室」と「鍵」と「会議室」

本を大切に思い、管理をきちんと行おうとすれば、学校図書館に人のいない時間帯は、鍵をかけたくなることでしょう。しかし、学校図書館の歴史は、「鍵」との戦いの歴史でもありました。

学校図書館の建設は、戦後の教育改革の一つの柱でした。すべての学校で学校図書館を設けることとなり、学校教育法施行規則第 1 条にも学校に必置の設備の中に「図書館又は図書室」があります。

ところが、学校図書館法が成立しても司書教諭は「当分の間置かないことができる」という附則があり、人のいない学校図書館が続きました。学校図書館の存在が日々の学習から離れていた時代もありました。薄暗く古い本の匂いのする鍵のかかった本の倉庫のような学校図書館、子どもたちの学習ではなく大人の会議室として使われていた学校図書館を経験された方も多いのではないのでしょうか。

戦後 70 年間、学校図書館に携わる先輩たちは、次のことを広めてきました。まず、学校図書館は、本を置いておく部屋「図書室」ではなく、「学校図書館」として教育活動の中で機能することが大事であるということです。次に、学校図書館は、利用しやすい場所にあり、児童生徒教職員が学校にいるときはいつでも開館されていて、気軽に利用できるということです。そのために、会議やその他のことで学校図書館を閉館することを極力避けるようにします。

学校図書館スタッフ、児童生徒の図書委員会活動、学校図書館ボランティア、地域協働学校などを視野に入れ、いつでも利用できる学校図書館経営をしてください。

## 中学校の学校図書館支援員から小学校 6 年生へ

中学校の学校図書館支援員が近隣の小学校 6 年生に図書館便りを発信します。「中学校にはこんな本があります。」「中学校の学校図書館で待っています。」というメッセージが込められています。昨年度落合地区で行って好評だった取り組みで、今年度は全校で行われます。小学校の学校図書館等に掲示されますので、ぜひ 6 年生に声をかけてください。